

須崎市基礎データ

人口: 21,557人(令和元年10月末)
面積: 135.34平方キロメートル

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

須崎市における主な公共交通概要

鉄道

- ・JR土讃線

バス

(路線)

- ・とさでん交通(株)
高知～須崎線(令和元年9月まで)
- ・高知高陵交通(株)
梶原～須崎線、中土佐～須崎線
土佐～須崎線(令和元年10月から)

(フィーダー)

- ・須崎市
南地区と市街地を結ぶ自家用有償旅客運送

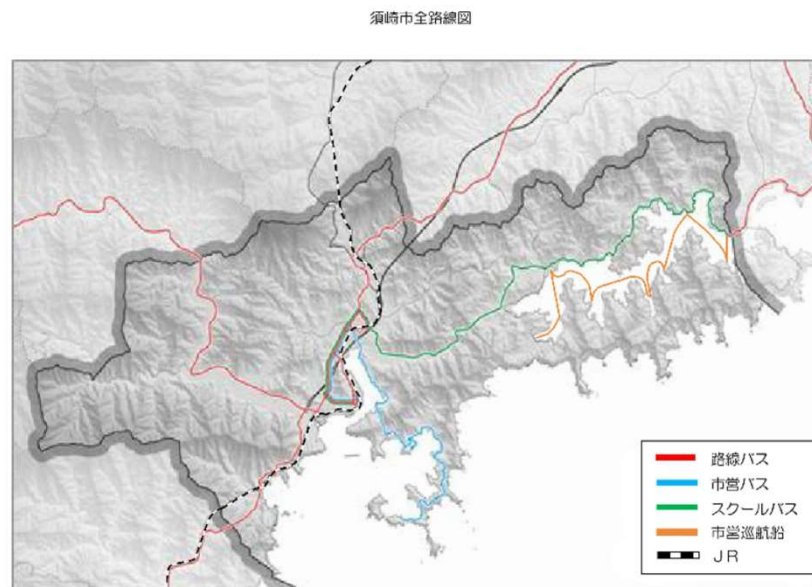
(スクールバス)

- ・須崎市
浦ノ内地区と市街地を結ぶ混乗バス

離島航路

- ・市営巡航船
浦ノ内湾内の北岸と南岸を結ぶ
(離島航路運営費補助金対象)

須崎市の公共交通ネットワーク図



須崎市地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(令和元年度)

協議会の構成員

高知高陵交通(株)、にしきハイヤー(株)、須崎ハイヤー(有)、(有)吾桑ハイヤー、住民代表、四国運輸局高知運輸支局、高知県

前年度の事業評価における課題

利用者のニーズの把握・分析を行い地域に求められる公共交通の実現と維持に努める。

定量的な目標・効果

(目標)

目標人数: 22,500人

目標運賃収入: 5,226,000円

(効果)

当該路線を維持することにより、住民の日常生活に必要な移動手段が確保される。

フィーダー系統図



「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

平成31年4月よりバス停留所を増加するとともに回数券の券種を増やし利便性の向上に努めた。具体的には、市営バスと民営バスのルートが同じ区間において、停留所を合わせることで、便数の増加効果を図った。また、増設した停留所と大型量販店区間の回数券を新たに設定し広報やホームページで周知した。

自己評価

事業実施の適切性

市営バスの運行により、日常生活に必要不可欠な移動手段が確保されている。また、通院や買い物等の利用を想定し乗り方や時間・料金等を具体的に示した須崎市中心部のバスの路線図を配布し高齢者等の移動手段を持たない住民に周知を図った。

「定量的な目標・効果」の達成状況

輸送目標人数22,500人に対し実績は22,873人と目標を上回った。
運賃収入においては、目標金額5,226,000円に対して実績が5,342,220円と目標を達成した。

今後の事業に向けた改善点

他の計画策定時において、生活環境に関する簡易な住民意識調査を行った結果、公共交通や買い物支援などの取り組みに対する満足度が低かったことから、より具体的な地域ごとの課題やニーズの把握に努め地域の移動手段として路線の維持を図る。

市営バスは、利用者数と運賃収入ともに微増している状況であるものの、人口減少に伴う利用者の減少が見込まれることや、市営バスを含む路線バス自体、また乗り方や乗降場所も知らない住民が多く、バス利用に向けた、わかりやすい周知が必要。

その他PRポイント